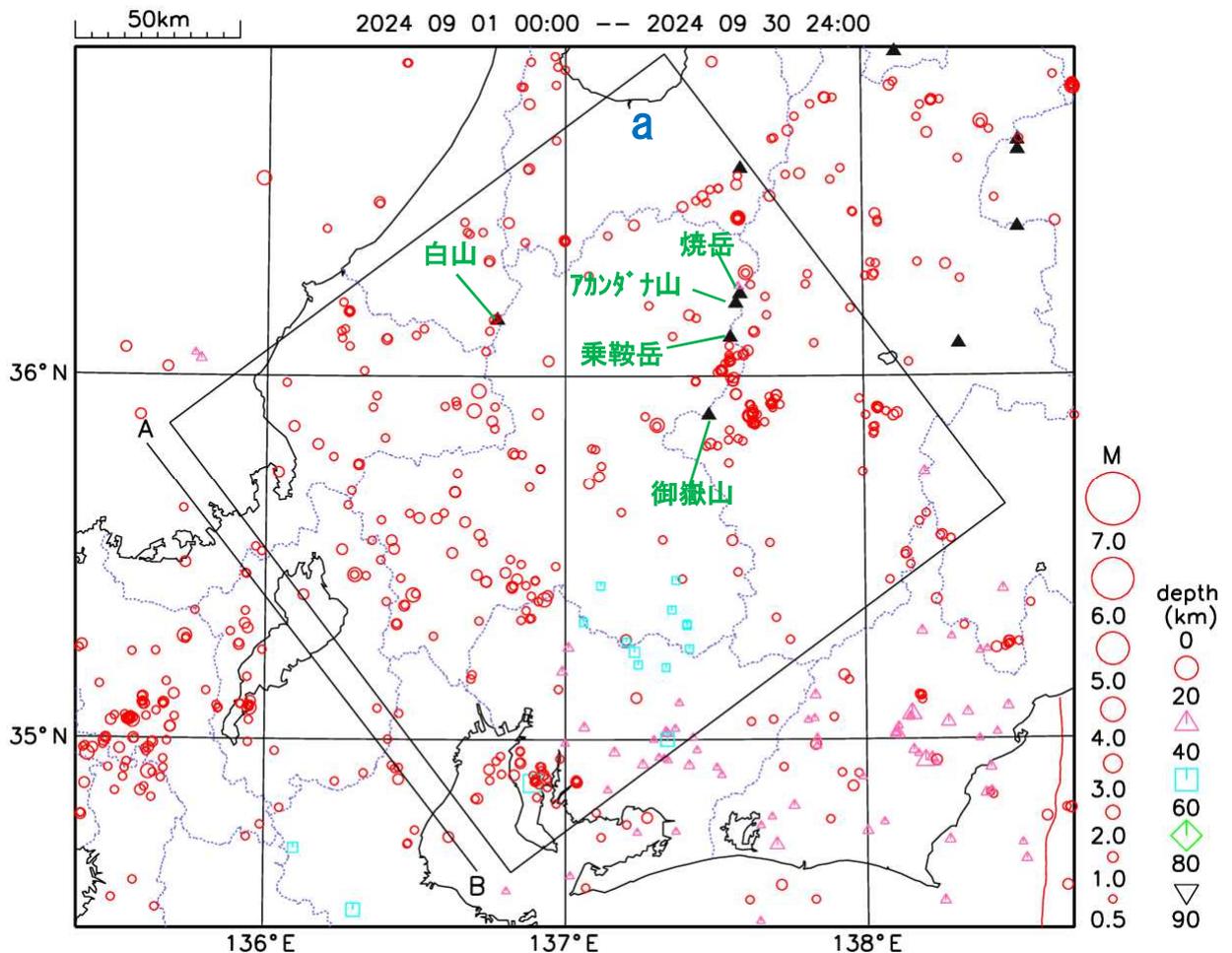


岐阜県とその周辺の地震活動

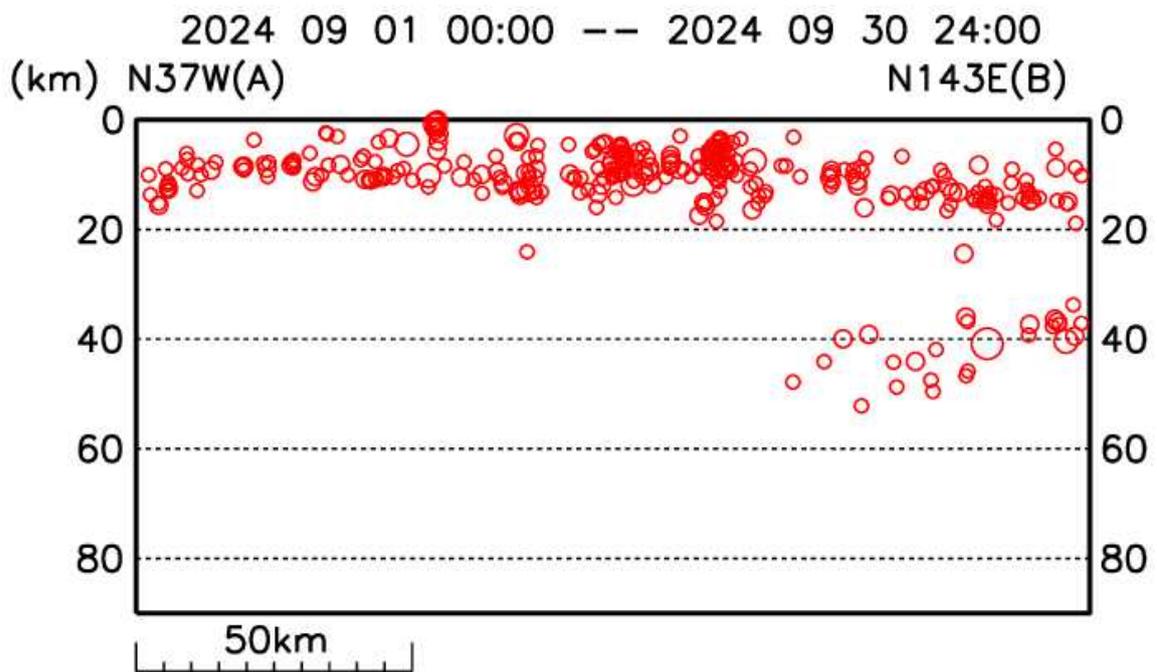
(令和6年9月1日～9月30日)

【概況】

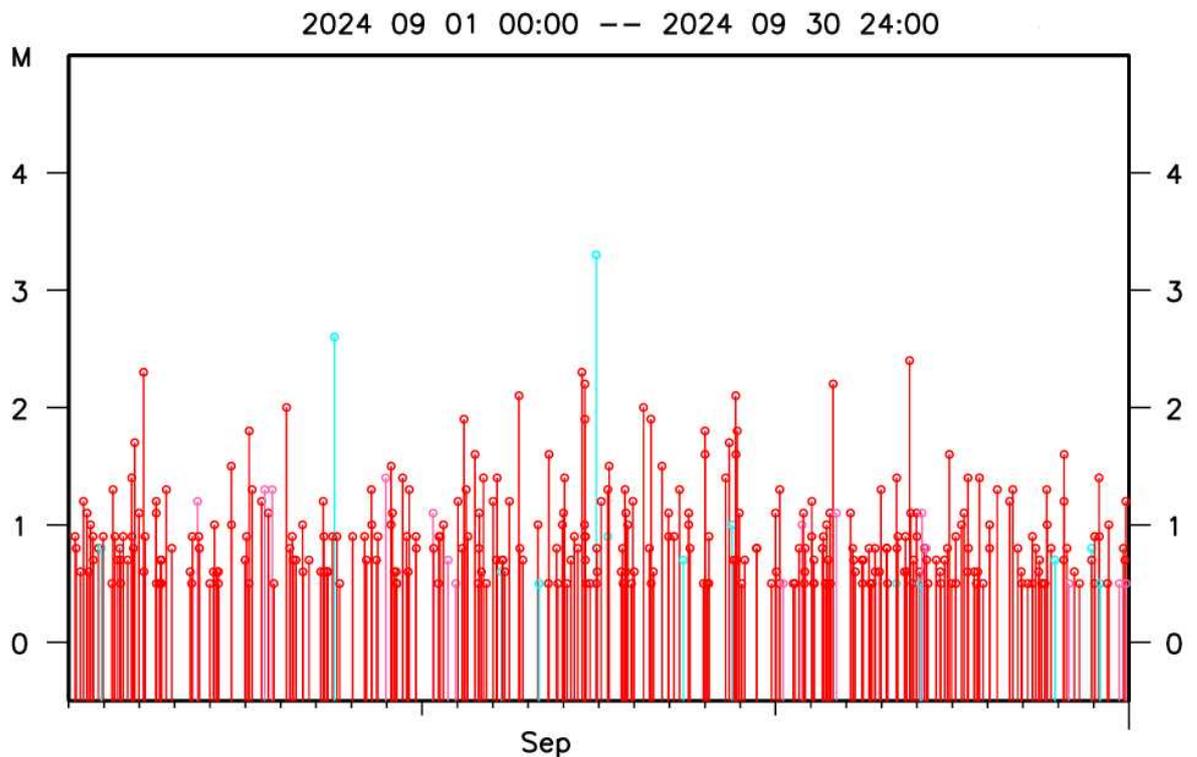
今期間、岐阜県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした。



第1図 令和6年9月の岐阜県と周辺地域の震央分布図
期間：令和6年9月1日～9月30日（深さ90kmまで，M：0.5以上）
※図中の ▲ は活火山を示します。



第2図 令和6年9月の第1図領域a内A-B断面図
(期間：令和6年9月1日～9月30日)



第3図 令和6年9月の地震活動経過図 (第1図領域a内)
(期間：令和6年9月1日～9月30日)

【最近1年間の月別・震度別地震回数】

第2表 岐阜県内で震度1以上を観測した地震の月別・震度別回数表（令和6年9月30日まで）

震度	令和5年10月	令和5年11月	令和5年12月	令和6年1月	令和6年2月	令和6年3月	令和6年4月	令和6年5月	令和6年6月	令和6年7月	令和6年8月	令和6年9月	合計
1	4	3	2	62	11	5	5	7	3	1	4	0	107
2	3	0	1	18	1	0	2	0	4	1	0	0	30
3	1	1	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0	10
4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
5弱	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5強	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6強	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	4	3	88	12	6	8	7	7	2	4	0	149

※過去1年間に、岐阜県内で震度3以上を観測した地震は以下のとおりです。

- ・令和5年10月8日：岐阜県飛騨地方でM3.4の地震が発生し、高山市で震度3を観測しました。
- ・令和5年11月8日：岐阜県飛騨地方でM3.3の地震が発生し、高山市で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月1日：石川県能登地方でM7.6の地震が発生し、高山市、飛騨市で震度5弱を観測しました。
- ・令和6年1月1日：能登半島沖でM4.0の地震が発生し、高山市で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月1日：石川県能登地方でM6.1の地震が発生し、高山市、白川村、飛騨市、下呂市で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月1日：石川県能登地方でM5.8の地震が発生し、白川村、飛騨市で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月1日：能登半島沖でM5.8の地震が発生し、高山市で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月2日：石川県能登地方でM5.6の地震が発生し、白川村で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月3日：石川県能登地方でM5.6の地震が発生し、高山市、白川村、飛騨市で震度3を観測しました。
- ・令和6年1月6日：石川県能登地方でM5.4の地震が発生し、高山市、白川村、飛騨市で震度3を観測しました。
- ・令和6年3月23日：岐阜県美濃中西部でM4.6の地震が発生し、揖斐川町で震度4を観測しました。
- ・令和6年4月30日：岐阜県飛騨地方でM3.6の地震が発生し、高山市で震度3を観測しました。

- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・本資料は速報のため、後日の調査により更新されることがあります。
- ・2020年9月以降に発生した地震を含む図については、2020年8月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。
- ・この資料の問い合わせ先 岐阜地方気象台 防災担当 電話：058-271-4108（平日8:30～17:15）
- ・この地震概況は、岐阜地方気象台ホームページの「岐阜県の地震概況」に、過去の資料とあわせて掲載しています。

https://www.data.jma.go.jp/gifu/shosai/jishin/gaikyo/jishin_gaikyo.html

※南海トラフ地震に関連する情報について

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eww/data/nteq/index.html>

11月5日は緊急地震速報の訓練に参加しましょう！

気象庁では、11月5日（火）に緊急地震速報の全国的な訓練を行います。緊急地震速報は見聞きしてから強い揺れに襲われるまでの時間が、ごくわずかであり、その短い間に慌てず身を守るなどの防災対応をとるためには、日頃からの訓練が必要です。

●訓練実施日時

- ・令和6年11月5日（火）10時00分頃

国の機関や地方公共団体（Jアラート経由）、民間の緊急地震速報を提供する配信事業者のうち、訓練への参加を計画している機関や団体に対して、訓練用の緊急地震速報を配信します。

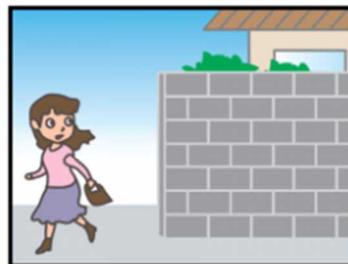
●訓練の参加方法

- ・お住まいの自治体の防災行政無線や商業施設などで緊急地震速報が放送される場合があります。放送が聞こえたら、身を守る行動をとりましょう。
- ・気象庁ホームページで公開している訓練用動画や、スマートフォンの訓練用アプリを使ってみましょう。
- ・緊急地震速報を受信する端末をお持ちの方は、訓練用の緊急地震速報や受信端末に備わっている訓練機能を利用してみましょう。

●緊急地震速報を見聞きした時の行動の具体例



頭を守って、安全な場所に避難！



危ない場所から離れて！



お店では、あわてず
係員の指示に従って！

●シェイクアウト訓練

最近では、「シェイクアウト訓練」という2008年にアメリカで始まった地震防災訓練も注目されています。これは、指定された日時に、地震から身を守るための3つの安全行動（①姿勢を低く、②頭を守って、③揺れが収まるまでじっとする）を各人がいる場所（職場、学校、外出先等）で約1分間行うというものです。緊急地震速報の報知音を合図に、このような訓練もやってみましょう。



安全確保行動 1-2-3

出典：効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議 (<http://www.shakeout.jp/>)

緊急地震速報 訓練



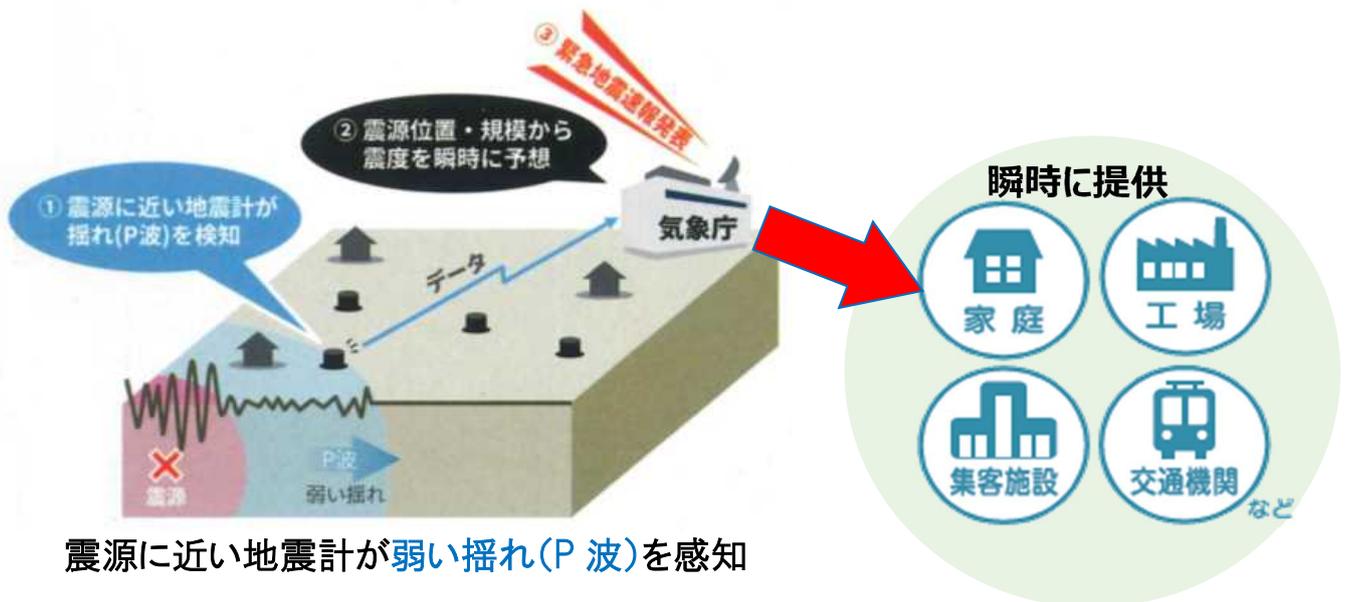
緊急地震速報とは

地震発生後、地震による強い揺れがくる前に、揺れの強さ（震度）や強い揺れの到達時刻、長周期地震動階級を予想し、可能な限り素早くお知らせする情報です。強い揺れの前に自らの身を守ったり、列車のスピードを落としたり、工場等で機械制御を行うなど活用がなされています。

緊急地震速報（警報）の発表条件

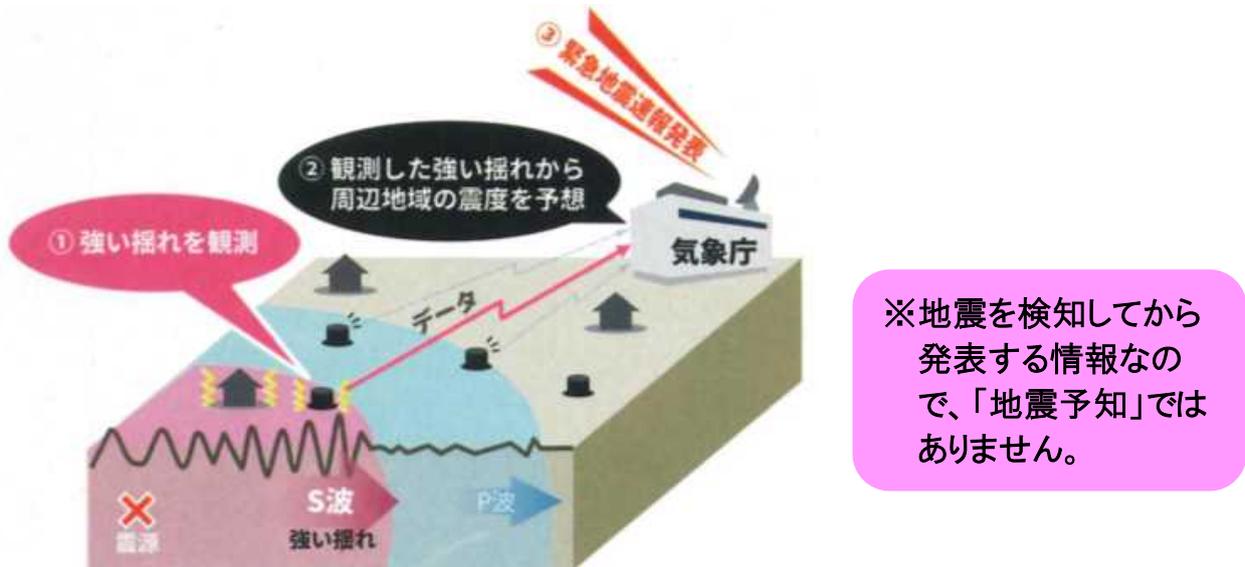
地震波が2点以上の観測点で観測され、最大震度が5弱以上または最大長周期地震動階級が3以上と予想された場合、震度4以上または長周期地震動階級3以上が予想された地域を対象に発表。

<緊急地震速報のしくみ>



震源に近い地震計が弱い揺れ(P波)を感知

強い揺れ(S波)が来る前に地震の場所と大きさを予測・発表



日頃からの備え

①「安全スペース」を作っておきましょう

地震の揺れに備えて、寝室や居間など室内のよくいるところに「物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない」スペースを作っておきましょう。

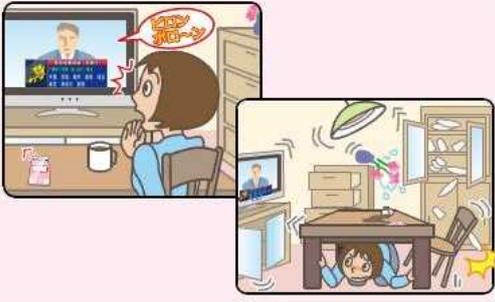
②訓練に参加しましょう

6月及び11月5日(津波防災の日)前後に、緊急地震速報の訓練を実施しています。これらの機会や、お住まいの自治体が行う訓練に参加して、定期的に地震から身を守るための対応行動を身につけておきましょう。

周囲の状況に応じて、あわてずに、まず身の安全を確保する。

家庭では

- 頭を保護し、じょうぶな机の下など安全な場所に避難する
- あわてて外へ飛び出さない
- むりに火を消そうとしない



鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりつかまる



エレベーターでは

- 最寄りの階に停止させ、すぐにおりる



屋外(街)では

- スロッキ塀の倒壊に注意
- 看板や割れたガラスの落下に注意



自動車運転中は

- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす



いざという時のために、取るべき行動を日頃から訓練しておくことが大切です。

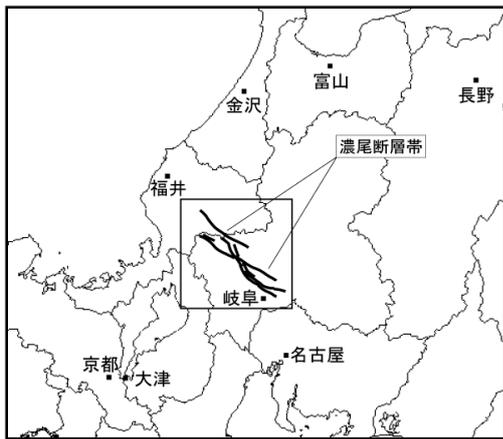
政府インターネットテレビ **緊急地震速報**～その時どう動く？「数秒間の心がまえ」

<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg24210.html>

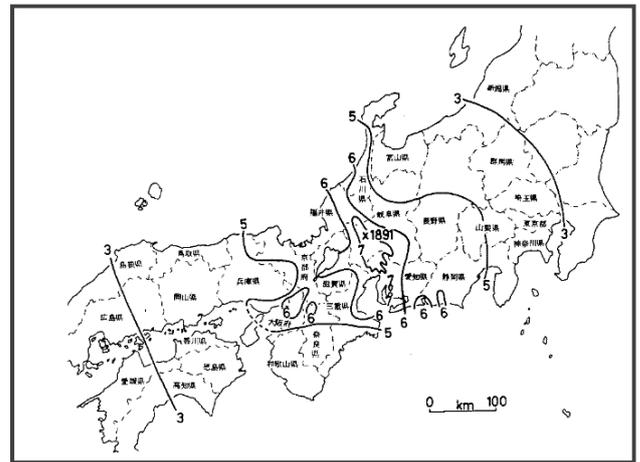
濃尾地震について

濃尾地震は岐阜県から福井県にまたがる濃尾断層帯で発生した地震で、陸域の浅い地震としては最大級のマグニチュード8.0でした。震源付近では震度7、東海・北陸・近畿地方では震度6の地域が広がり、美濃西部から尾張北西部にかけて記録的な大被害を受けました。濃尾地震は、地震国日本における地震学のきっかけとなった地震でした。

- 発生日時 1891年（明治24年）10月28日 6時38分
- 震源 岐阜県美濃中西部（北緯35.6度 東経136.6度）
- 規模 マグニチュード8.0
- 概要
 - ・全長約80 kmの根尾谷断層系のうち根尾水鳥地区では、上下最大6m、長さ1 kmの断層崖が出現（国指定特別天然記念物）。
 - ・福井県から岐阜県にかけての断層沿い、断層から離れた濃尾平野まで広範囲に及んだ大被害。



濃尾地震帯の位置（地震調査研究推進本部）



濃尾地震の震度分布（愛知県防災会議地震部会）



根尾谷断層水鳥断層崖（2022年10月 岐阜地方気象台撮影）



左横ずれ断層（2022年10月 岐阜地方気象台撮影）

根尾谷断層水鳥断層崖の近傍には、トレンチ発掘した現場を利用して1991年(平成3年)に根尾村が濃尾地震100周年を記念して建設した地震断層観察館があります。上下6mにおよぶ段差を示す断面が直接観察できるほか、濃尾地震の被害状況などが紹介されています。

令和6年度岐阜県防災気象講演会

【ご案内】

岐阜地方気象台では、岐阜県及び岐阜市と連携し、広く一般の方を対象に、防災知識の普及啓発及び自然災害による被害の防止・軽減を図ることを目的として、下記のとおり講演会を開催します。

【日時】

令和6年11月4日（月・祝）9時30分～11時30分（開場：9時00分）

【開催場所】

じゅうろくプラザ（5階大会議室） 岐阜市橋本町1丁目10番地11

【定員】

100名程度（入場無料）
定員になり次第締切ります。

【申込方法】

事前申込制、先着順で定員になり次第締切ります。

11月1日（金）までに下記電話番号またはWEBフォームからお申し込みください。

岐阜地方気象台 防災グループ

電話番号：058-271-4108（平日9時～17時）

WEBフォーム：令和6年度岐阜県防災気象講演会 参加申込フォーム



【講演内容】

「能登半島地震の教訓を生かした地震災害への備え」

【講師】

岐阜大学工学部教授 能島 暢呂（のじま のぶおと）

なお、講演内容及び講師のプロフィールにつきましては、岐阜地方気象台ホームページ <https://www.data.jma.go.jp/gifu/index.html> をご覧ください。

【問合せ先】

岐阜地方気象台 防災グループ

電話：058-271-4108（平日9時～17時）